



新年の第一週 その2

(続き) 年が明けてK早先生の威圧がますます強くなったような気がします。「日比谷生は、たとえ数学・国語ができなくても英語でカバーする」と。今年は”脱日本人”を目指し、英語を頑張りたいです!(も、もちろん国語もやりますよ) 日直だと、授業内容を書かなくてはならないため、授業に集中できてイイですね。

シリトリ: アルダブラゾウガメ → $\text{CH}_3\text{C}_6\text{H}_9\text{COOH}$ (メチル安息香酸)

▼1月11日(金) ●●

1 数学 三角形の五心・チェバの定理・メラネウスの定理

*T木先生の図は辺ABがわずかにふくらむ。私の図もなにか癖があるかと思ったが汚いだけだった。先生の一昨日の外接円、感動的に綺麗でした。

2~3 生物 バイオーム

*地理とからまってきたりして面白いですね。後ろの方の席だと寝てる人も見えるのですが。それとあんまり関係ありませんけど、数学のあと●●君が拭いてくれた黒板に、「外周」って書いてあったのはどういうわけですか。

4~5 芸術 美術=顔のリアル・イラストレーション

*原節子の写真を用意してきた。ひたすらひたすら点をプロットする。PとRを読み間違えた悲しさ。油絵とデッサンが返ってきた。私の油絵の林檎とレモンはなぜ「ヘルシィ」とか「瑞々しさ」とかいう言葉が似合わないのだろう。

6 現代文 富嶽百景

*空が綺麗だと、たまに窓から出たくなるのは私だけだろうか。

7 古典 臥薪嘗胆

*主がそれをやっちゃいかんだろう、勾踐。ただ、薪の中で寝たら節々が痛みそうだから、漢方薬を嘗める勾踐の方が賢いような気がする。

生物のところに書いたことともちょっと関わってくるのですが、もう黒板拭くのをやめるつもりである。いつの間にか指摘するのが面倒になってずるずる引きずってきたけれど、多分私は協力と馴れ合い、優しさと甘さをはき違えていたのだと思う。学級日誌という場を借りてこんな宣言することをお許し下さい。さて、何故このようなことを云いだしたのか。たいした理由もない。人が社会生活を営むかぎり、役割を分担することは必要不可欠となる。請け負った仕事・責任を全うし、全うすべく努力し、それでも穴があれば周囲の者が補うのが集団のあるべき姿ではなかろうか。自らの仕事をしないのも怠惰、しかし他の人がそのような態度をとるのを見て見ぬふりするのもまた同様に「責任を全うしないこと」ではないか。一般的に書こうとしましたが、上手くいったかは疑問。適度に堅苦しくてフォーマルな雰囲気もあり、さらに読んでいて楽しい文というのはなかなか難しい、と思いつつBGMを選んで筆を擱きます。(BGM: 生まれて来る子どもたちのためにbyオフォーコース)

シリトリ: $\text{CH}_3\text{C}_6\text{H}_9\text{COOH}$ → 山椒は小粒でもぴりりと辛い